

た か い し



<http://www.suginami-school.ed.jp/takaido4shou/>

杉並区立高井戸第四小学校

ともに学ぶ楽しさを求めて

校長 本橋 忠旗

処暑を過ぎ、朝夕には虫の音が響くようになりましたが、この夏も厳しい暑さが続きました。作物への影響も心配される中、気候変動が私たちの生活に与える影響を実感するこの頃です。8月24日には、西荻ふるさと盆踊りが盛大に行われました。多くの子供たちや大人の皆さんが輪をつくり、踊りを楽しむ光景は、日本の古き良き伝統の継承と人と人のつながりの大切さを感じた瞬間でした。

さて、今年3月に東京都教育委員会が発表した施策に「第5次東京都教育ビジョン」というものがあります。策定にあたっては、都内小・中・高等学校及び特別支援学校の校種に在籍する児童・生徒約1万人に対してアンケートや聴き取り調査を実施してきた経緯があります。例えば、学び方について、「どんな学び方だと、内容が理解しやすいと思いますか」という問い（3つまで選択可）に対し、全校種の児童・生徒が共通して「自分で学習の計画を立て、自分が決めた方法で調べたり、考えたりする学習」「グループで話し合ったり、作品をつくったりする学習」「実験や観察などの体験学習」を上位に挙げています。また、「困ったことがあったときに、誰に相談しやすいですか（複数選択可）」の問いに対しては、各校種の約30～35%の児童・生徒が「家族」を挙げ、次いで「友達（26～40%）」となっています。さらに、学校への要望についての聴き取り調査では、「色々な先生や違うクラス、学年、学校の人と交流できる機会の充実」や「みんなで協力して完成させる機会の充実」というような声が寄せられていました。

このアンケート結果から分かることは、子供たちにとって学校は、「新しい知識を得たり、体験的な学習を通じたりしながら、学習の理解のレベルを上げる場であること」、そして何よりも、「友達とのかかわりが重要な場であること」ということです。2020年、全国の学校が臨時休業を余儀なくされていた頃、「学校へ通う意味」について中学生が新聞に次のような投書していたことを思い出しました。「今（家にいる中で）、学校生活と大きく違うのは、「嫌い」なものに触れなくなった点だ。学校に行けば、苦手な人と顔を合わせ、嫌いな教科も学び、時に退屈な時間を過ごすこともある。学校では、勉強だけでなく、人とのかかわりや課題を乗り越える力、生きていくために必要な力も学ぶのだと、休校体験から気づいた。」という内容でした。

いよいよ2学期が始まります。2学期は、85周年記念の児童集会から始まり、学芸会、運動会の大きな学校行事や学年の行事等が続きます。一つの目標に向かって仲間と協力して取り組む、集団生活の場となる学校でしか経験できないことをもとに、その意味合いを児童一人一人が見付けていってほしいと思います。

9月7日（土）には、道徳授業地区公開講座（授業参観・講演会）があります。講師に杉並区済美教育センター 筒井鉄也先生をお迎えし、「豊かな心をはぐくむ道徳教育」と題して、講演をいただきます。ご家庭や地域の皆様と歩調を一緒にしながら児童の健やかな成長に寄与していくことができる機会にしたいと考えています。多くの皆様のご参会をお待ちしております。今学期もどうぞよろしくお願いたします。